

# 日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第245回定期演奏会  
The 245th Regular Concert

# その光、ふたたび



2025年  
5月28日(水)

19:00開演 (18:30開場)

- 会場：豊洲シビックセンター 5Fホール
- 主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
- 後援：公益財団法人日本伝統文化振興財団  
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

演出：原郷隆 演出助手：富田慎平 構成：喜羽美帆 舞台監督：中島隆

## 第245回定期演奏会 ‘その光、ふたたび’

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

1964年の創立以来、日本音楽集団から数多くの邦楽作品が生まれてきました。今回は、その作品たちの中から、会場のお客様から評価の高かった曲、また再演の声の多かった曲を特集いたしました。どの曲も後世に伝えていきたい名曲たちです。

今宵、設立から61周年目を迎えた‘日本音楽集団’が紡ぎ出す、邦楽アンサンブルの魅力をどうぞお楽しみください。

### プログラム

#### ね・とり 〈開幕のためのセレモニー〉 三木稔 1973年

〔笛〕 あかる潤  
〔尺八Ⅰ〕 元永拓  
〔尺八Ⅱ〕 川俣夜山  
〔細棹三味線〕 今藤政優  
〔太棹三味線〕 山崎千鶴子  
〔琵琶〕 藤高りえ子  
〔二十絃〕 三宅礼子  
〔箏Ⅰ〕 久東寿子  
〔箏Ⅱ〕 喜羽美帆  
〔十七絃〕 久本桂子  
〔打楽器〕 盧慶順  
山内利一  
〔指揮〕 箕輪健太

破格を重ねた十年の営みを経て、私達には、もはや邦楽とか洋楽といった規定の概念から突出し、この時代のこの国に深く根ざした様式の確率が要請されていると思われる。歩みを止めた邦楽からの変身の介添役であった洋楽の影も、徐々に拭い去りたい。

そのようにして達する私たち一座のコンサートの理想像が私なりにあり、その第一着手が、この〈開幕のためのセレモニー〉と副題した「ね・とり」となった。もちろん言葉の意味は雅楽の「音取」に依拠するものである。

冒頭は常に全体の雰囲気へのヘゲモニーを握る。ポスター、ちらしでは実行したが、そのようなものは本来無署名でありたいし、音楽自体も、いうならば「無為にして在る」ほどのものでありたかった。

いつしか始まり、さりげなく登場し、自然に音を取り、強いられることなく合わさり、そして逐次退っていく。それもまた、どこか伝統に則っている。

これは作るもの、演ずるもの、受取るもの、なべて会場にある人同志のコンセンサスを得るための時間にすぎない。音楽を想う必要はない。

さらにいうならば、拍手なども無用ではなからうか、と考える。

三木稔 第19回初演プログラムより



1973年7月3日  
第19回定期

#### 3つのカプリース 秋岸寛久 2012年

〔尺八〕 原郷隆  
〔三味線〕 長井麻江  
〔箏Ⅰ〕 熊沢栄利子  
〔箏Ⅱ〕 桜井智永  
〔十七絃〕 久本桂子

楽器演奏って、自転車や車の運転、パソコンの操作などと比べるとずっと難しいと言われますよね。でも、地道で苦しい訓練を乗り越え、ある程度自由に楽器が操れるようになったときの喜びは、ほかでは味わうことができないものでしょう。そしてさらにアンサンブルまで楽しめるわけですから、全くうらやましいかぎりです。

そんなわけで、「もし楽器が演奏できたら、気のあったセンスのいい仲間たちとこんな音楽をアンサンブルしたい」という曲を作りました。本日のメンバーもきっとアンサンブルを楽しんでくれることでしょう。その楽しさが伝わって、「参加したい」と感じていただけましたら幸いです。

秋岸寛久 第206回初演プログラムより



2012年7月13日  
第206回定期

#### わとわ 三宅一徳 2020年

〔尺八Ⅰ〕 原郷隆  
〔尺八Ⅱ〕 田野村聡  
〔尺八Ⅲ〕 元永拓  
(笛) 新保有生  
〔三味線〕 今藤政優  
〔琵琶〕 久保田晶子  
〔二十絃〕 三宅礼子  
〔箏〕 桜井智永  
〔十七絃〕 久本桂子  
〔打楽器〕 多田恵子  
盧慶順  
富田慎平  
〔指揮〕 箕輪健太

「輪」と「和」をモチーフにした3つの Miniature Garden.

輪廻転生、生々流転、永遠の営みの中で巨視的には同じような事象がひたすら繰り返され、微視的には繰り返しの中で様々な摩擦と新たな変化が引き起こされている。

曲中各々のパートが持つアイデンティティはある時は他のパートと同調し、あるときは位相のズレや距離感による関係性の変化を起こしつつも、各々のペースを大きく崩すことなく保ち続け、また過度に破壊的になる事なく他者との適度な緊張感と共に概ね和を保ち続ける。

特色として20絃事を通常のダイアトニックではなくペンタトニックで調弦する事で絶対音域の拡大と13絃箏のもつ豊かなレゾナンス特性を指向。

20絃箏が開発された経緯とは別視点からの原点回帰かつインベンション的側面も持つ楽曲でもある。

I) 廻(めぐる)

ディベルティメント的性格。

5 (2+3) 拍子のリズムの上に3+3+3+2 = 11拍の諧謔的なモチーフが踊り、5 (3+2) 拍子の歌を引き出す。素数のせめぎ合いの中に和を見出だす。



2020年2月19日  
第229回定期

## II) 霧の円庭 (きりのえにわ)

間奏曲。円を描くゆったりとした和みの時間。枯山水に浮かび上がる砂紋の如く。

## III) 輪舞曲 (ろんど)

3+3+3+2 = 11拍という端の欠けたいびつなワルツ的モチーフが支配する Rond。

他者との距離感において周期的に自己を再確認しつつ、他者を巻き込んで大きな輪を形成していく。

三宅一徳 第229回初演プログラムより

# シンフォニエッタ・ルラーレ 上野耕路 1992年

- 〔笛〕 山本一心
- 〔尺八Ⅰ〕 田野村聡
- 〔尺八Ⅱ〕 饗庭凱山
- 〔尺八Ⅲ〕 川俣夜山
- 〔三味線〕 山崎千鶴子
- 〔琵琶〕 藤高りえ子
- 〔箏Ⅰ〕 渡辺正子
- 〔箏Ⅱ〕 喜羽美帆
- 〔箏Ⅲ〕 森真理子
- 〔十七絃〕 丸岡映美  
木内麻由
- 〔打楽器〕 盧慶順  
富田慎平
- 〔指揮〕 苦米地英一

サブカルチャー以降、欧米のスノビズムと化した括弧付きの東洋思想…その寸法に合わせた日本人の作品…日本において、欧米の流行を味方に付けることが、好評の保証なのであれば、私はそうした作品は書かない。

このタイトルの「田舎風」というのは、欧米のスノビズム足り得ない、日本人の意識の辺境性を指しているものであった、聞き取りやすいリズム、メロディ、東洋的造形の音楽時間的アナロジーの拒絶さとの関係は恣意的だ。

さて、最近流行のポピュラー的喉ごしの良さへの無条件降伏は、私には耐え難い。運悪く私の作家イメージは、その範疇のようだ。この作品を聞いて未だそう思われるとしたら…多分そうに違いない…私はとても不幸だ。

上野耕路 第138回プログラムより



1992年10月6日  
第125回定期

# 組曲「人形風土記」第二番 長澤勝俊 1984年

- 〔笛〕 新保有生  
芝有維
- 〔尺八Ⅰ〕 元永拓  
阪口夕山
- 〔尺八Ⅱ〕 原郷隆  
饗庭凱山
- 〔三味線〕 杵家七三  
長井麻江
- 〔琵琶〕 久保田晶子
- 〔胡弓〕 木場大輔 (助演)
- 〔箏Ⅰ〕 熊沢栄利子  
木内麻由
- 〔箏Ⅱ〕 渡辺正子  
喜羽美帆
- 〔十七絃〕 久東寿子  
森真理子
- 〔打楽器〕 多田恵子  
山内利一
- 〔指揮〕 苦米地英一

日本には数多くの単純、素朴な郷土人形や郷土玩具がある。これらは我々が祖先から受けついできた生活や心を、しっかりと形におさめ、現代に受けつがれている。それは古拙ではあっても絶妙な美をもって今のわれわれに、何ものかを語りかけてくる。

私は18年前、これらの人形に触発され、6つの素材をえらび作品を書いた。今回は、新たに5つの素材をえらび組曲「人形風土記」第二番としてまとめてみた。

### 1. 三春人形

福島県郡山の近くにある三春地方に、江戸時代から伝わる張り子人形。天神、トラ、玉うさぎ等、沢山の種類があるが、そのいずれもが軽妙かつおおらかで、人の心をとらえてはなさない。

### 2. いづめこ人形

いづめことは保温用にめしびつを入れるわら桶のことをいう。東北地方一帯には農繁期や冬期に幼児をこのわら桶の中に入れて育てる風習があった。ほほえましいこの風習から郷土色豊かなこの人形が誕生したのだろう。

### 3. すずきみみずく

まだ江戸と呼ばれていたころの草深い武蔵野の面影をとどめているのが、このすずきみみずくである。豊島区雑司が谷の鬼子母神境内で、お会式の前後に売られていたものである。すずきのふかふかした丸味を生かして、そのままみみずくの体にみたてた奇抜なアイデアに感嘆させられる。

### 4. 友引人形

関西よりはじまった風習といわれており、友引の日に葬式を出さねばならない時、棺の中にこの人形を入れてやったことからこの名がある。子供、大人を問わず、深く人形とかかわりながら生きてきた人間のいとなみを深く感じさせる。

### 5. 凧(ハタ)

長崎地方では凧という字をハタとよむ。鎌倉時代には軍用として舞台の目印や、のろしの代用として使われた。以後日本全国に広がり、節句の祝いに、豊作への祈念や感謝へと、空への憧れとともに庶民の夢を大きくうたいあげてきた。

長澤勝俊 第85回初演プログラムより



1984年9月5日  
第85回定期

笛  
あか 潤  
遠藤 悠紀 ※  
芝保 有維 ※  
新孫 保 有 夢 ※  
山本 一 心 ※

笙  
東田 奈  
三浦 は な

箏  
原 祐 二  
西 三 浦 元 則

尺八  
饗庭 凱 山  
川 侯 夜 山  
阪口 夕 山  
竹井 野 村 誠  
田 野 村 聡  
原 郷 隆  
測上 ラ フ ェ ル 広  
元 永 拓  
米 澤 浩  
渡 辺 淳

三味線  
藤政 優 ☆  
今家 七 三  
杵井 麻 江  
長代 貢 正  
三目 山 志  
三 積 大  
穂 田 弘 郎  
簀 田 司 伊  
守 啓 子  
山 崎 千 鶴

琵琶  
久保 晶 子  
田原 順 子  
藤 高 り え 子

箏  
石井 香 奈 ※  
藤麻 衣 子 ※  
岡山 亮 由 子 ☆  
木内 麻 寿 子  
久東 栄 利 子  
熊沢 智 永  
桜井 里 美 ※  
佐藤 春 美 ※  
島 崎 春 美 ※

城ヶ崎美保  
久本桂子  
丸岡映美  
三宅礼子  
森真明  
山羽美帆  
喜羽美帆  
渡辺正子

打楽器  
白杵美智代 ※  
尾崎太一 香 ※  
島村聖恵 平 ※  
多田慎利 一  
富田利 順  
山内 慶 順  
盧 慶 順

指揮  
稲田 康  
菅米地英一  
箕輪健太 ☆

作曲  
相澤 洋 正  
秋岸 寛 久  
川崎 絵 都 夫

篠田大介 ※  
高橋久美子  
福嶋頼秀

アートマネージメント  
大西愛子 ※

楽器・舞台  
中島 隆

代表  
尾崎太一

副代表  
米澤 浩

事務局  
中山美穂子

永久名誉団員  
長澤勝俊  
田村拓男

(☆印は新入団員  
※印は休団中)  
2025年4月現在

## 賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 ◆個人会員10,000円(一口以上)  
◆法人会員30,000円(一口以上)



ホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

【賛助会員】(口数・五十音順)

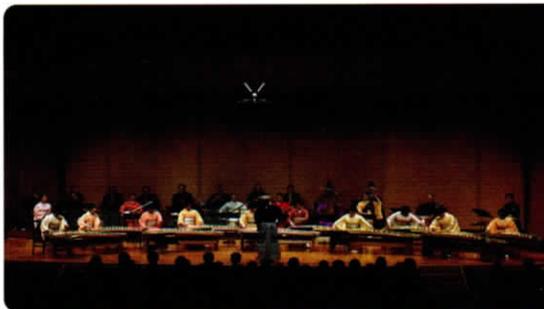
【法人会員】  
日凸運送株式会社  
株式会社青和運輸  
株式会社青和トラフィック

伊藤 美好  
伊藤 憲夫  
内山 小次郎  
織田 澤康寿  
柿崎 やよい  
佐藤 玲子  
新保 美恵子  
西川 浩平  
沼倉 哲哉

福田 暉男  
三宅 一徳  
元永 明希  
元永 美代子  
森 繁美  
山本 福八  
他3名  
個人会員計21名  
(2025年5月2日現在)

【個人会員】

池内 伸子  
伊藤 悦子  
伊藤 哲彌



## 日本音楽集団

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・胡弓・笛・小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇などさまざまな分野で演奏活動を行っています。

海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア等、31カ国151都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。

文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481 URL: <http://kinko-do.com>  
FAX (03) 3792-8437 E-mail: [tokyo@kinko-do.com](mailto:tokyo@kinko-do.com)

是非フォロー下さい



日本音楽音楽集団  
Facebook

## 特定非営利活動法人 日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033  
ホームページ <http://www.promusica.or.jp>